

第36回 廃炉・汚染水対策現地調整会議 議事概要

1. 日程

日時：平成28年11月21日（金）13：45－15：45

場所：いわきワシントンホテル 『アゼリア』

2. メンバー

政府：

- ・高木原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
- ・後藤原子力災害現地対策副本部長
- ・復興庁：白井次長
- ・環境省：加藤水環境課長補佐（代理出席）
- ・国土交通省：小俣河川環境課長
- ・水産庁：竹葉増殖推進部研究指導課長
- ・文科省：三野原子力課長補佐（代理出席）
- ・廃炉・汚染水対策チーム：田中特別対策監
尾澤事務局長補佐、秦対策官
柿崎企画官、湯本事務局総括
- ・廃炉・汚染水対策現地事務所：生越所長、木野参事官、本田調整官
- ・原子力損害賠償・廃炉等支援機構：松永所長

事業者：

- ・東京電力：石崎福島復興本社代表、増田プレジデント
有馬バイスプレジデント、石川廃炉推進Cプロジェクト統括管理センター長

オブザーバー：

- ・福島県：五十嵐政策監

規制当局：

- ・原子力規制庁：山田審議官、持丸調整官

3. 結果概要

■高木副大臣からの冒頭挨拶

◇本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝いたします。

◇陸側遮水壁につきましては10月上旬に海側の地中部分の凍結が完了いたしました。本日午前中に、1Fの現場において凍土壁の周辺を掘削し実際に地下の土壌が凍結している状況を確認してきました。山側につきましては7箇所未凍結箇所のうち2箇所を凍結する実施計画の申請が行われており、第二段階へ向けて引き続き安全かつ着実に進めていきます。

◇また、9月20日、台風16号をはじめとする降雨の影響により、海側の護岸エリアの地下水位が一時的に地表面レベルに達しました。今回の降雨に対しては、作業員の皆様の昼夜間わない努力のお陰もあり、地下水が溢れ出ることはありませんでした。一方で、雨水対策の重要性が改めて確認されたところであり、サブドレンや凍土壁といった「近づけない対策」に加え4m盤への地下水・雨水の流入抑制対策なども進めていくことが重要です。汚染水問題の解決に向けて、これらの対策が予防的、重層的に機能していくよう、一つの対策の状況や方針について報告を受け、ご意見を頂きたいと思っております。

◇またその他雑固体廃棄物焼却設備のその後の対応、1/2号機排気筒周辺における線量調査結果、敷地境界連続ダストモニターの警報発生にかかる対策、66kV双葉線引留鉄構の一部損傷の対応など、最新の状況について報告を受けたいと思っております。

◇本日も活発な御意見、徹底した御議論をお願いいたします。

■主な指摘事項

資料1

➤ 注水設備

規制庁も10月から11月にかけて13市町村首長を訪問し1Fの状況を説明しているところ。デブリの冷却が地震時等に停止するのではとご心配事項となっている。注水機能の5系統の管理のうち、既設の配管とつなぎこんでいる配管については、地震対策も追加が必要。既設配管の管理については注意すべき。

➤ 66kV双葉線鉄塔の一部損傷について

66kVの鉄塔の一部損傷について、応急処置を早急に実施した点はよいが、点検を建設当初からされていなかったことが問題。柏崎では対策がとられていたので、このような他の発電所の状況の情報共有を行い、水平展開を徹底してもらいたい。

➤ サブドレン

サブドレン対策の計画については前倒ししている。さらに推進できるのであれば前倒ししていただきたい。規制庁でも早めに審査を進めて欲しい。

➤ 1/2号機のドレンサブピット

ドレンサブピットから水を汲み上げそれを移送ホースで移し替える中で、水の濃度は変化を把握してほしい。

資料2

➤ 1号機壁パネル

今後も、ダストが飛散しないように作業は慎重に行って欲しい。汚染水対策については、凍土遮水壁の山側の凍結についてしっかりと早急に成果を出して欲しい。また、これらの状況についてはマスコミも通じて分かりやすく県民に対しても情報共有をお願いしたい。

➤ 地下水関係

資料42、43ページでも、凍土壁（海側）の効果は確認でき、今後は山側も早く閉合できるように、スケジュール感をもって分析を進めてほしい。また雨水対策についても今年の雨等のデータ分析を踏まえて、来年の梅雨前までに効率的に対策を進めていただきたい。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡